

2022年10月27日

大阪産業大学附属高等学校

2021年度 学校関係者評価

大阪産業大学附属高等学校
学校関係者評価委員会

10月25日に学校関係者評価委員会（9名の委員が出席）を開き、学校が公表する生徒アンケート、学校評価に基づいて大阪産業大学附属高等学校の教育について議論しました。その概要を報告します。

1. 2021年度 学校評価について

学校からの授業アンケート結果についての分析報告、学校評価の報告を受けて各委員から学校への質問、感想や提言がありました。保護者代表、保護者OB代表、地域住民代表からは高校の取り組みに肯定的な意見があり、系列校である大阪産業大学の教員からは、さらに高大連携を深めていきたいとの意見がありました。

2. 学校教育への提言

A. 保護者代表から

高校からのアンケート結果の報告を受けて、学校の授業やその他の取り組みに対する生徒からの肯定的な評価が高い状況に、今後も引き続き生徒のために教育に力を注いでもらいたいとの声がありました。ある保護者からは、自分の子どもには教科で好き嫌いの偏りがあったが、子どもが在籍しているグローバルコースでは短所をなくすというよりも長所を伸ばす教育をしてくれ、そのお陰で子どもの成績が伸び、目標の大学に合格することができた、グローバルコースの良さをもっと社会に認知してもらいたいという意見がありました。また、他の保護者からは、今年から改定された学習指導要領の眼目の一つである課題解決型学習も有効に取り入れていてもらいたいとの意見がありました。

B. 保護者OB代表から

学校から、2022年4月からのICT教育推進に向けて進めている準備の中に、教員対象の研修も重ねているという説明があったが、その研修内容について詳しく教えてもらえないかという声や、今年（2022年）の4月から新生に一人一台情報機器を所有させたとのことだが、情報機器を使用している授業はどの程度普及しているのか、また、その状況はフィードバックできているのかという質問があり、高校からそれらの質問に回答がありました。

また、他の保護者OBからは、高校は強化クラブを中心に運動クラブに力を入れられ、顕著な成績を残していることは、子どもの母校として喜ばしく思っているため、今後とも運動部には頑張ってもらいたいという声もありました。

C. 同窓会代表から

いじめについて、年間を通じて定期的にいじめ調査をしていると学校から説明があったが、いじめの実態といじめが発覚した場合の学校の対処方法について教えていただきたいという質問がありました。また、学力保証期間を設定しているが、具体的な取り組みについて教えていただきたいとの質問があり、高校からの回答がありました。

D. 地域住民代表から

高校からの説明で、生徒がしっかり学業に取り組んでいるのがよくわかった。新型コロナウイルス感染の影響で、この2年間はこれまで高校に参加協力していただいていた堇フェスティバルや城東区SARUGAKU祭が中止になり、非常に残念だったが、今年は堇フェスティバルに参加していただき、非常に盛り上がった。城東区SARUGAKU祭にも参加されると聞いているので非常に感謝しているとの声がありました。

E. 大阪産業大学の教職員から

大学ではオンライン授業から対面授業になかなか移行できない中、高校はよく努力されているという感想がありました。また、本校との高大連携プログラムもこの2年間は思うようにできていないが、今後も高大連携の強化に努め、一人でも多くの生徒に入学していただきたいとの声がありました。